

# 校長室の窓'17

## 未来を信じて...

種をまく



20日の卒業式で、41本の若木を新天地に送り出しました。力強く堂々とした姿に、6年間の成長ぶりをうかがうことができました。

『木を植えた男』という絵本があります。フランスのジャン・ジオノの作品で、中2の国語の教科書にも載りました。山岳地帯の荒れ果てた土地をよみがえらせた男の物語です。名前はエルゼアール・ブフィエ。彼は毎日100粒のドングリを選び、羊を追う途中

に植えていきます。3年で10万個の種をまき、そのうち2万個が芽を出し、その半分がだめになると見込んでいます。

5年後、背丈ほどの若木が育ち、木立の中には小川が流れていました。さらに30年後には豊かな森になり、たくさんの生き物がもどっていました。たった一人の、気の遠くなるような営みで生まれた森には、それを知らない新しい住人の村ができあがっていました。

私たちの仕事は、ブフィエに似たところがあります。毎日せつせと、正則の子の心に種をまきました。すぐに芽を出すものもあれば、芽を出すまでに1週間、1か月かかるもの、もっともっと長い年月が必要なものもありました。私たちは、葉を広げ、若木に育てと願いを込めて、29年度もたくさん種をまいたつもりです。もちろん、学校だけでなく、ご家庭でも、地域でも、習い事や遊びのなかでも、正則の子は数え切れないほどの種を受け取っています。1年間でその学年なり、その子なりの小さな花を咲かせた子がいます。いずれ大輪の花を咲かせるために、今はじっと力を蓄える子もいます。どの子も、大きく伸びようと、しっかり葉を



広げようと、きれいな花をつけようとがんばった1年でした。いつか私たちの知らない場所で、まだ芽を出していない無数の種が、そっと顔を出してくれることを信じています。

この1年、正則の子がしっかり根を張って成長することができたのは、家庭や地域に確固たる大地があればこそと感じています。ご支援、ご協力ありがとうございました。健康で安全な春休みをお過ごしください。

